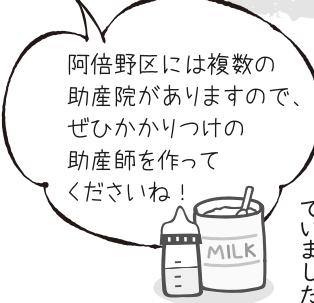


今年6月にオープンした助産院
助産院うまうま

助産師 中野さん

阿倍野区には複数の助産院がありますので、ぜひかかりつけの助産師を作ってくださいね！

MILK



阿倍野区文の里4-16-6
月～金曜日 8:30～17:00
(最終受付は16:30まで)
土日祝、お盆、年末年始
umaumajosanin@gmail.com
<https://josanin-umauma49.com/>

codomoto.jpでも
阿倍野区の助産院一覧を
掲載しています



閑静な住宅街の一戸建てで、開院されました。中野さんは、赤ちゃんだけでなく、お孫さんもいらっしゃると聞いてびっくりしました。

少し話しただけでも子どもが好きということが伝わってくる助産師の中野さん。赤ちゃんだけでなく、母親の私も一緒に包んでもらえるようなあなたたかさのある方でした。

お母さんもいらっしゃると聞いてびっくりしました。

落着いた雰囲気のお部屋に、ママに休憩をとつてもらいたいという中野さんの思いがあふれています。

詳しくは
大阪市HPへ



うまうま助産院は、出張ケアで出会ったママたちからの要望と、出張ケアよりもリーズナブルに家でゆっくりとケアしてあげたいという思いで、開院されました。



出張専門の助産院としてママに寄り添ってきた「助産院うまうま」が、今年6月、新たに通所も可能な助産院として文の里にオープンしました。

そこで0歳児のママでもある読者モニターのコーラさんが、助産院の様子や助産師の中野さんの想いを取材してきてくれました。

Q 乳幼児の保護者として、注意すべきことを改めて教えてください。

A 基本は手洗い・うがい・マスク着用

新型コロナウィルスの感染は「接触」「飛沫」によるものなので、やはり効果的なのは、手洗い・うがい・マスク着用です。流水手洗いで物

やはり感染のリスクが高まりますので、人混みを避けることが予防にはつながります。子どもの感染状況を見ると、今のところ多くが家族など周囲の人から感染です。そのため、手洗いの徹底以上に、感染しない環境を整えてあげることが大事だと思います。

Q 熱が出たときは、どんなタイミングで受診すればいいですか？

A 感染が拡大した今夏も、発熱の多くはアデノウイルスや溶連菌によ

感染症対策について
小児科の先生に聞きました

いのうえ小児科阪南クリニック
井上院長先生

理的にウイルスを落とせますので十分効果的。もちろんハンドソープなどを使っていただくとさらに効果的です。ちなみに2歳未満の子どもたちへのマスクはおすすめしません。熱がこもったり息苦しさにもつながります。

また、家庭用の中性洗剤も十分有効という報告がありますので、室内の机・ドアノブなどを拭き取るときには、使用してください。次亜塩素酸ナトリウム水やアルコール系のスプレーも含め、使用の際は吹きかけられるだけではなくその後にしっかりと拭き取ることが重要です。

人混みはできるだけ避ける
やはり感染のリスクが高まりますので、人混みを避けることが予防にはつながります。子どもの感染状況を見ると、今のところ多くが家族など周囲の人から感染です。そのため、手洗いの徹底以上に、感染しない環境を整えてあげることも大事だと思います。

Q コロナかも？と思つたらどうしたらいいですか？

A 現状では、家族の中で子どもだけがいきなり感染するということは少なく、また小さな子どもが味覚や嗅覚障害を訴えることもあります。症状を見て疑うことよりも、感染につながるような接触があつたかどうかを考えてみてください。ちなみに一メートル以内の距離でマスクをせずに15分以上接触した場合に、濃厚接触者と認定されます。もし感染の可能性が高いと思ったときには、左記まで問い合わせください。

現状では、新型コロナウィルスも他のウイルス同様、一緒にたたかっています。特に呼吸器疾患の持病があつたり免疫力が低下している子どもたちは注意が必要ですが、過度に怖がらず、適切な予防策を続けていくしかないのかなと思います。

Q インフルエンザのワクチンはどうしたらいいですか？

A 両方の流行が重なることへの懸念がありますので、今年度のインフルエンザワクチンはできれば積極的に接種していただきたいと思います。

新型コロナウィルスに関する
一般電話相談窓口

(阿倍野区保健福祉センター)

06-6622-9882

4月～5月の自粛期間中は、子どもたちの不定愁訴※が増えていました。チック症状※がでていて、来院時の様子が以前とちがってよそよそしかったり…。学校や園の再開後はほとんどなくなりましたが、やはり子どもたちへのストレスは大きかつたんだと思います。

現状では、新型コロナウィルスも他のウイルス同様、一緒にたたかっています。特に呼吸器疾患の持病があつたり免疫力が低下している子どもたちは注意が必要ですが、過度に怖がらず、適切な予防策を続けていくしかないのかなと思います。

Q インフルエンザのワクチンはどうしたらいいですか？

A 両方の流行が重なることへの懸念がありますので、今年度のインフルエンザワクチンはできれば積極的に接種していただきたいと思います。

ちょっと
聞いて～!